

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

# 文化通

2003

夏

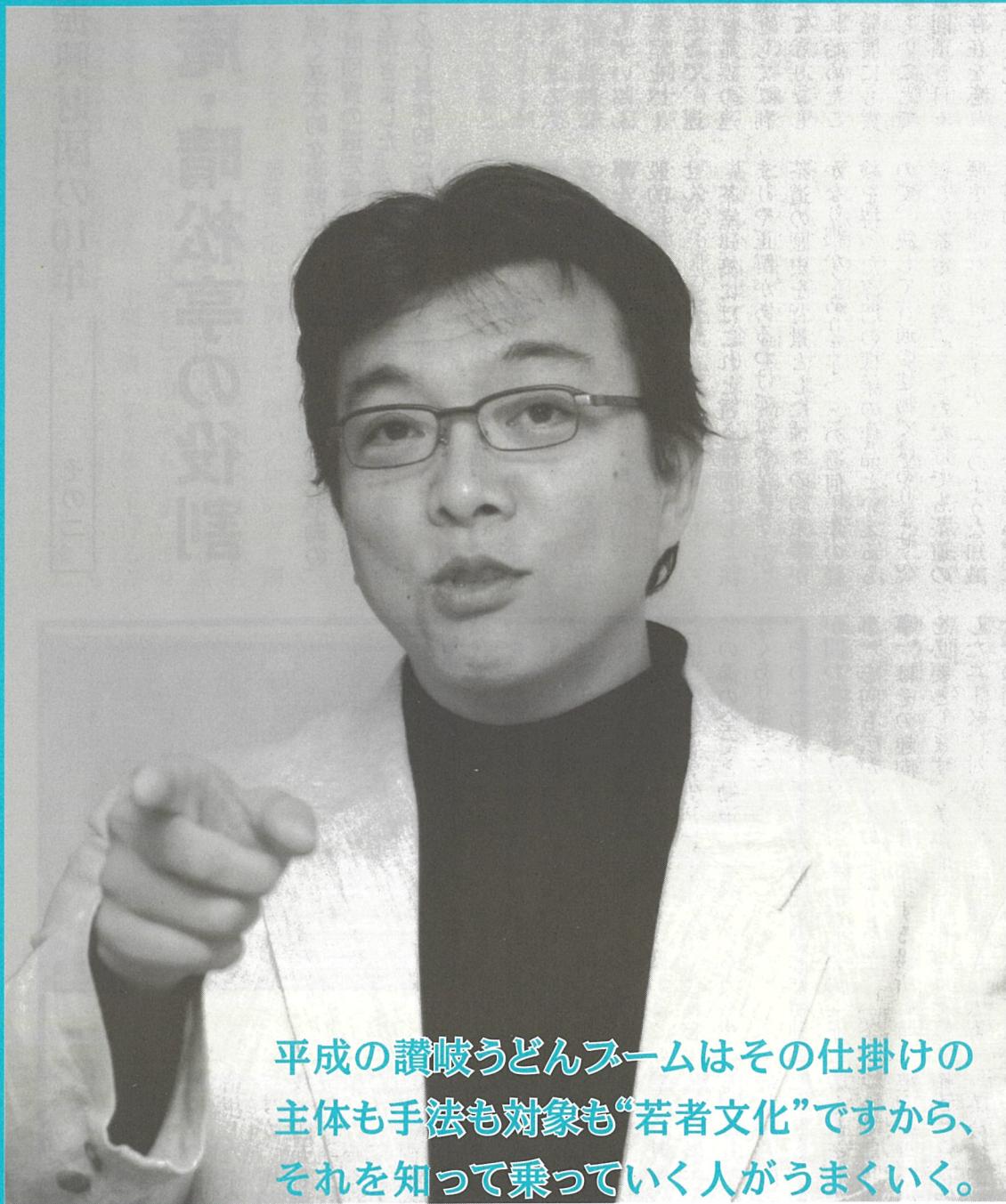
6月1日発行(季刊)

中條文化振興財団の十年 その一 美藻庵・晴松亭の役割

晴友会の小旅行・あれこれ

好評連載 美藻庵点描/Oh!茶Ga!!

六月から八月までの茶華道・イベント情報を掲載



平成の讃岐うどんブームはその仕掛けの主体も手法も対象も“若者文化”ですから、それを知って乗っていく人がうまくいく。

気づいてない人は、ブームに乗れないのです。

写真・文とも 田尾和俊氏

## 美藻庵・晴松亭の役割

前号では財団創設より続く基本的な姿勢について振り返りながら、活動の大好きな三本の柱であります財団賞の選定事業、助成金の交付事業、貸し茶室事業を改めて紹介させて頂きました。今回は財団の茶室 美藻庵・晴松亭の日々の活動についてもう少し具体的に説明させて頂きます。

### ◆茶室で文化すること

平成九年四月の茶室披き以来、まる六年が経過した財団の茶室ですが、当時に比べると路地（庭）や数寄屋もずいぶんと落ち着いて参りました。貸茶室をベースにした文化振興事業と言うことで、運営については開館当初から試行錯誤の連続ですが、茶会やお稽古の場としてご利用頂く機会もだんだんと増えて参りました。讀岐の茶室として認知され始めたことで、やはり参りました。貸茶室をベー

見して本質的な価値の分かる人は、数少ない数寄屋の建築の専門家か、実際に茶事をされるお茶の先生方くらいですので一般的にはなかなか正確な評価もいただけません。

茶室建築にはこれと言う確固とした決まりや正解があるわけではありませんが、

茶道の歴史を背景とした種々の約束事がかなり細かくあります。この道何十年の経験を持つた専門の棟梁の作品といえるもので、決して普通の建物ではありません。新しい茶室の解説をしただけでも茶道の歴史が語れるほどですが、そのような知識も当時は断片的にしかありません。いずれにしてもこの非日常の空間の理解には、実際の茶会に足を運んで頂いてお楽しみ頂くのが最も早道のように思われました。

当初は本格的な数寄屋造りの建物が完成したというだけで、例えば美術館や博物館のように何か見るべきものを置いて入館料をいたしました。貸茶室

ということでもしろ、普段は何も無い空間です。また、建物自体も新築の茶室を一見して本質的な価値の分かる人は、数少

時代を反映して歴史と共に歩んで参りました。特別の階級の人達が催してきた茶会も、戦後は門戸を広げ、茶道人口も大幅に増えて、茶会も多人数が一同にいた

だく「大寄せ」の茶会が大半となりました。時代と共に茶会のあり方が変わるることは当然のことかもしれません。これを

こうしたノウハウの蓄積は、財団が主催する月釜の経験の積み重ねの中から、少しづつ出来てきました。もちろんそのほとんどは月釜の席主を引き受けて下さった

いろいろの流派の先生方の知恵の固まりです。もちろん茶席そのものの趣向は先生方それぞれの世界ですが、全体の運営に於ては財団も参加させて頂き、当日の趣向や点心の内容など、先生のご意向を確かめながら内容を詰めていきます。

茶会は茶室の構造を活かしたやり方とすることで多くの場合、濃茶席、薄茶席、点心席の三席構成で考えてきます。出来る限り茶事に近い大寄せの茶会といふことで、一日にお迎えできるお客様人数は、財団の茶室の場合、最大でも一四〇名と比較的限られて参ります。また、一人一人のお客さまにご満足頂くために一



### ◆財団の月釜のこと

前や露地まで茶会のすべてを一人でこなしていかなければなりません。

大寄せの茶会というのは茶事でいうと緊張の大きな山が終わって少し気持ちが軽くなつたところでいたゞく薄茶の部分を応用した茶会の方法です。場所にもよります。

これまでの実績から申しますと一日最大四五名様くらいを一度にご接待できます。これまでの実績から申しますと一日に五〇〇名様位が限度ではないかと思われます。両極端な例で恐縮ですがそれぞれ

にノウハウがあつて、お客様の規模によって変わる茶会の方法を把握するだけでも大変です。

席の人数を限定させていただいているます。

お客様にとつて大寄せの場合と違うのは、茶席の予約が必要なことです。席に空きがある限りご希望の時間を先着順でお受けしています。これは料理をお出しする関係からですが、月釜の点心席では懐石料理を簡略化した内容が多く、熱いものは熱く、冷たいものは冷たいうちにお出しするという茶懐石の基本に忠実であります。熱いところに起因します。

このように出来る限り茶事に近い形でいうのは、財団の月釜の基本的な姿勢で、例えば、席と席との移動時の導線やご案内のタイミングなどにも反映して参ります。露地を通り、躊躇口より席入りをして頂くとか、別の席のお客さま同士が顔を合わせないよう配慮したりと、非常の茶室空間の中で心地よい緊張感を感じて頂くことを目指して積み重ねて参りました。まだまだ不完全ではありますがなれば幸いに思います。

## ◆月に一度の喫茶室のこと

去年の九月より毎月第三木曜日には「月に一度の喫茶室」というのを始めました。これは月釜のように時間指定だとなかなか参加できないけれども、たまには財団のよいう空間でゆっくりとした時間が持ちたいので、時間に関係なく入れる日を作つてほしいとの要望をいただいたことをきつかけに実現致しました。財団の茶の湯委員会の先生方とのお話を方向性を決めたの

ですが、とにかくこの喫茶店の日には財団の茶室の機能を出来る限り解放していくことになりました。一つには財団の仕事について知つて頂く機会として、また一つはこれまで興味はあるても実際に茶席の経験がほとんどなかつた方にお茶の樂しさを知つて頂くため、といったことを柱に致しました。

時間が自由といつても大寄せの茶会ではありません。一般的の喫茶店のようにメニューもありません。立札席と小間にそれぞれ点前の道具をしつらえて、実際にお茶を点てて差し上げます。広間ではコーヒー、紅茶、中国茶。時には南米のマテ茶なんかも出て参ります。手作りのお菓子なども並びます。半分セルフサービスでそれらを自由に召し上がりながらワイワイガヤガヤとお楽しみ頂いているうちに、いつしかお茶を中心とした文化サロンのような感じになつてきました。

ご接待下さるお茶の先生方のそうですが、お客様からボランティアスタッフに転じて毎回、お手伝い下さる方もいらっしゃいます。もしこの記事を読まれて、お茶席を手伝つてもいいという方がいらっしゃいましたらぜひ、ご一報下さい。

さて、茶室をフル活用するといえば、ご要望に応じて例えば、躊躇の使い方や躊躇口の入り方を体験して頂いたり、場合によつては先生が社中の方にそこにある道具で課外授業をして頂いてもかまいません。また、小間で濃い茶を差し上げることもあります。普通、お茶を習つてもなかなか経験できないことを気軽に体験し

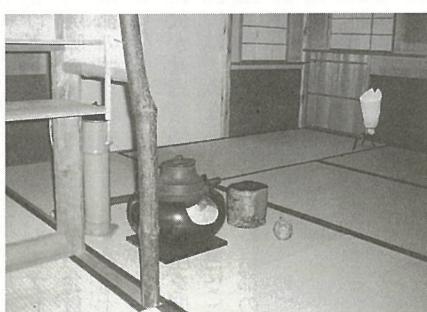
て頂くのもこの喫茶室の狙いで、分かりやすく説明しながら体験して頂くと、若い人の中にもお茶に対するニーズがまだまだ残っているのが分かります。

そして、手応えといいますと、ここでは月釜のような茶会と違つてとにかくお話を致しますのでいろいろな知識や情報が集まつてきます。これまで存じ上げなかつた専門家の方が来られて、茶室について、建物の細かい処理の仕方についてなど説明して頂いたりと、お恥ずかしい話ですが、最近では教わることが多いのです。

で頂くのもこの喫茶室の狙いで、分かりやすく説明しながら体験して頂くと、若い人の中にもお茶に対するニーズがまだまだ残っているのが分かります。そこで、世界が大きく広がつていくといふことを垣間みると、改めて茶の湯のすごさを知らされたような思いです。また、茶室が単に茶会をする場所という以上に可能性を持っているとしたら、この「月に一度の喫茶室」の役割というのも意外に大きい気がしてなりません。皆様もぜひ一度お運びください。

## 美藻庵点描

### 十二、 畳 (二)



畳の寸法は、前号でふれた半間×一間が基本モニュールではあるが、畳の種類により多少寸法が異なる。古書に伝わるものと、現在のものとを合わせると、御所畳（七尺×三尺五寸）、高野畠（六尺六寸×三尺三寸）、昔畠（六尺五寸×二尺二寸五分）、京畠（六尺三寸×三尺一寸五分）、間の間（六尺×三尺）、田舎間（五尺八寸×二尺九寸）となる。特に茶室用としては、京畠を用いているが、茶席用に用いる畠には特別の呼び名がある。床畠（主として床の間に用いられる畠）、貴人畠（床の間前などに敷く畠）、客畠（一般の客がすわるところに敷く畠）、踏込畠（茶道口に接して亭主が茶事の際踏込む畠）、炉畠（炉を切つてある畠）、点前畠（点前をする畠で、道具畠・居畠ともい）、台目畠（台子の幅だけ縮めた畠で、長さを四尺八寸としたもの）。その他間中四方の畠などがある。

# 晴友会の小旅行・あれこれ

財団では晴友会員相互の交流をはかるために、毎年、小旅行を企画してきました。いつも満員という盛況ぶりですが、バスの日帰りあり、現地のJR駅集合ありと、お集り方法はいろいろでしたが、いつもお馴染みさんたちが、それぞれの乗り場から「お元気でしたか。今日は、よろしくお願ひします」と、挨拶をかわしながらのご参加風景は変わりません。もちろん、その後の乗り物時間は、おしゃべりタイム。季節の風景を楽しむながらの道中、その一部を再現してみました。

## 「はじめは

### 鍋料理の会でした

会員相互の交流をはかり、生の声を財団運営の参考にしたいと、平成九年の秋に発足した晴友会の初めての集まりは翌十年の一月。蓬莱飾りの財団茶室でお茶を一服いただいた後、国際色を意識した鍋料理を、わいわいがやがやと始めました。

会場には、少し濃い目の甘辛味の鴨鍋、思ひのほかあっさりした京風のスッポン鍋、中国のホーコース、この頃に流行したモツ鍋、韓国ブームをさきがけたキムチ鍋、フランスを気取ってブイヤベース、和製ボルシチ、参加者の持ち込みで閻鍋など、普段の食卓には珍しい鍋料理がそろいました。

## 「春爛漫の野点とバーベキューの宴」

十一年度の懇親会は会員の方からの情報報で、桜の咲きそろった峰山公園で花見がてらの野外料理の会となりました。

春の天気も気紛れなもので、小寒くてコートが離せません。バーベキューの火の周りに集り、箸も食も進みました。

山上に全国でも珍しい積石塚古墳のある峰山は、最近、民家や別荘が建ち並び、日暮れても明るい道筋です。足に自信がないからと尻込みする年配の方も、ドライブウエーが整っているからとお誘いして喜ばれました。そりやあ、見事な桜・サクラ・さくらでした。



## 「津田の浜辺で

### お月見とシャレました

その年に、浜辺での月見茶会はいかがですかと、津田の松原観月会からお誘いを受けました。一品一芸とかで、なにか一品。落語の「長屋の花見」では沢庵を切つて卵焼き、大根の白いのはカマボコと見立てるのですが…。寄せては返す波間にきらめく月を前にして、幻想的な美しい海辺のお月見を堪能させていただけました。

## 「あこがれの本場・京都で

### 懐石料理に舌鼓

懇親会の楽しみのひとつは、おいしい料理がいただけること。

旧式で厳しい膳や、戦争前後で外食未経験

十三年の晩秋に鞆・安国寺と尾道・淨土寺を訪ねました。どちらも足利氏の庇護を受けた由緒ある寺で、瀬戸内海交通の要衝として栄えた古い町は、今も往時のたたずまいを残しています。それだけに、大型バスなどは道幅制限を受け、徒步散策が強いられるのですが、それがまた、ゆつたりとした街並み採訪になり、秋晴れの中、程よい散歩になりました。

お昼は精進料理をいただきましたが、これも会友の方からの情報で企画しました。立派なお庭を見ながらお茶も楽しめて、好評のうちに帰途に着くことができました。

## 「数寄者の茶の湯を垣間見る思い」

一度目の京都懐石を楽しんだ日、野村別邸「碧雲荘」を特別に公開していただけました。六千坪の敷地に茶室や能楽堂をしつらい、東山を借景とした庭には琵琶湖疎水を引き入れ

の娘時代を過ごされた方々の、歴史の狭間に取り落した楽しみを今こそ取り戻そうといふ勢いでしようか。近年のグルメブームも手伝って、美味の追及に余念のない会員の方々がいました。

茶事に欠かせぬ茶懐石料理ツアーを希望する声が講師の山本勝先生が経営される京都の「三友閣・塵外室」へ、アンコールを含めて二度の訪問を実現しました。

料理の内容はその都度、季節ごとの本格懐石料理。京都ならではの食材や、見事に変身したありきたりの野菜にお箸の手が止まり、このときばかりは、おしゃべりも少なめで至福のひとときを楽しませていただきました。

このときばかりは、おしゃべりも少なめで至福のひとときを楽しませていただきました。

## 「歴史探訪を兼ねたお寺巡りもありました」

### お寺巡りもありました

十三年の晩秋に鞆・安国寺と尾道・淨土寺を訪ねました。どちらも足利氏の庇護を受けた由緒ある寺で、瀬戸内海交通の要衝として栄えた古い町は、今も往時のたたずまいを残しています。それだけに、大型バスなどは道幅制限を受け、徒步散策が強いられるのですが、それがまた、ゆつたりとした街並み採訪になり、秋晴れの中、程よい散歩になりました。

入席時間ご案内

第一席	九時	第二席	九時五十分
第三席	十時四十分	第四席	十一時三十分
第五席	十二時二十分	第六席	十三時十分
第七席	十四時		

各席二時間三十分の予定

## ◆七月月釜

### 「客(まろうど)茶会」

茶の湯の経験や、流派にこだわりなく、お気軽にご参加いただければ幸いと、財団の月釜を続けて参りました。そこで、今回も七夕まつり前の暑気払いに、「客茶会」を計画しました。

講岐を訪れた人や物を客としてとらえ、講岐の事象を探る四国新聞の「客たち」が好評のうちに終了し、先だって、めでたく上梓されました。そこで、連載中に「客たちの行間」と題した茶話会式のシリーズ講演をいただいた著者の妹尾共子さんに、本の出版を記念した茶会を計画

## ◆六月月釜

この度思いがけなく安部流お家元が財團に金をかけて下さることになりました。いつの茶会でもお家元のご趣向は楽しく、参会の皆様を喜ばせて下さいますが、さくなお人柄で、点心は?お菓子は?と準備も楽しんでいらっしゃる様子です。

新緑の美しい時、一服一煎のお席と酒飯席にお出かけ下さいませ。このときばかりは、おしゃべりも少なめで至福のひとときを楽しませていただきました。

とき 平成十五年六月十五日(日)  
記  
処 当財団茶室 美藻庵 晴松亭  
席主 六六壳茶安部庵家元五世坂本大定  
茶席 一服席・淹茶席・酒飯席  
席料 八千五百円

## 財団行事予定(六月～八月)

# Oh! 茶Gai!

その⑯



今回はスポーツやダイビングが趣味という行動派の大学4年生、山内菜摘さん。そんな彼女がお茶を習いだしたのは「豊かな人生を送るには静と動のバランスが大切だと思う」からだと。茶道の魅力はとても合理的なところ」と言う山内さん。無駄がなく、極限まで簡素化された一連の流れに心が搖さぶられます。さらに、その根底にある「おもてなし」という美しい心意気は習いだして初めて感じたことだそうです。「お茶会は発表会」と思っていた彼女は茶道部の部長の時に学生会で亭主をつとめさせられました時に「日頃の成果を見てもうだけではなく、来て下さったお客様に喜んで頂くこそ大切なのだ」と感じたそうです。まだ習い始めて二年足らずですが、すでにお茶は山内さんの人生を豊かに送るために、なくてはならないものとなっているそうです。

## 喫茶居（十六）

### 「初夏の茶会」

「植物学の父」牧野富太郎博士を顕彰した高知の「牧野植物園」を訪ねました。初夏の風が吹き抜ける園内を一巡して、午後には法要寺の「牧野富太郎博士を偲ぶ茶会」に向かいました。

裏山が借景になつた広い境内にも、陽に透かした緑の風が漂い、軒が深い建物の座敷は障子を開け放してさえ薄暗く、逆に庭は目をそばめるほどにまぶしく輝いていました。

野山の花々が飾られた部屋での席待ちのひとときには、新発見の筆に夫人の名を冠して「スエコザサ」と名付けたというロマンチックな逸話が思い出され、茶会に博士が重なりました。

高知らしく尾戸焼の茶碗が交じた道具でもてなされた濃茶、薄茶席の帰り道には、早々に田植えを済ませた高知の初夏の風景が続き、南国高知の印象が鮮やかに心に残りました。



た池が広がり、屋形船が漕ぎ出す人を待つてつながっていました。

雅に命名された茶室が点在する回遊式の庭園の隅々、橋石や灯籠、差し石・置石のひとつにまで、財閥の数寄茶人・野村得庵の教養や趣味が行き届き、感嘆と驚きの連続でした。詳細はその折に既報しました。

## 「最近は隣県の小旅行が二つ続きました」

今年の二月には徳島の新スポット・瀬戸内寂聴記念室訪問を中心に行きました。阿波十郎兵衛屋敷、阿波踊り会館などを巡り、「滝の焼餅」や料亭青柳の「婆沙羅」で昼食を楽しむという盛りだくさんぶりでした。

四月には会員の方からのお誘いで、高

知市内の法要寺で催された

「牧野富太郎博士を偲ぶ茶会」に参画しました。

五台山に広

がる牧野植物園を訪れ、宮尾登美子の小説のモデルとなつた料亭



## 八月

### ◆八月月金「朝茶」

夏本番を迎える朝より披く「朝茶」が昨年好評だったので今年もがんばつてみることにしました。

席主は裏千家「茶樂会」西讃や鳥取で日頃茶事を楽しんでいる方々です。

#### とき

平成十五年八月三日（日）

#### 処

当財団 美藻庵 晴松亭

詳細は後日ご案内いたしますが、ご希望の方はご連絡下さいませ。

すべての行事は予約制（時間指定）となります。お申し込み、お問合せは、当財団事務局まで（水曜日休館）

高松市番町二丁目一一一二  
☎(087)826・3355

「次回は好評の京都シリーズを予定しています。どうぞ期待ください」

一茶一菓の趣向にふるさと愛をこめ、おしのぎの点心に歴史のエピソードをかくした試みは、「客たち」の光景を茶会に再現した、こだわりのない楽しいひととき。お点前は流派を超えた男性陣が担当いたします。お揃いでお運びのほど、お待ち申し上げます。

# 茶 華 道 ガ イ ド

安部流洗心会四国支部 ☎(0877)86-3442

8/3 第68回蓮見茶会  
主席：安部流洗心会四国支部  
掬月亭 1200円 6:30～13:30

池坊高松支部 ☎(087)889-1169

9/26.27.28  
第20回池坊香川県連合花展  
高松市天満屋 10:00～19:00

一生流家元 ☎(087)821-4347

7/10・11 第39回香川いけばな連盟展  
(一生流、嵯峨御流、草月流、池坊)

一茶流—茶庵 久松会 ☎(087)885-2322

6/15 第36回菖蒲茶会  
主席：一茶流 中村一鐘  
栗林公園掬月亭  
1500円（入園料含む） 9:00～15:00

石州流讃岐清水派石州会 ☎(087)898-6569

6/8 月釜（東讃茶道懇話会）  
主席：安西光恭  
池戸西徳寺 400円 9:00～16:00

8/3 七夕茶会  
主席：本堂席 石州流、  
書院席 表千家  
池戸西徳寺 1000円  
7:30茶筌供養、8:00～16:00 茶席

表千家同門会香川県支部 ☎(087)874-0458

6/8 栗林公園月釜  
主席：表千家 平田宗経 掬月亭  
710円（入園料別） 9:00～16:00

7/13 表千家四季茶会 席主：美澤宗包  
本覚寺 500円 9:00～16:00

8/3 蓮見茶会  
主席：表千家同門会香川県支部  
栗林公園商工奨励会  
1200円 6:30～13:30

表千家流表風会 ☎(087)831-6412

6/1 栗林公園花菖蒲觀賞茶会  
主席：無類井宗英社中（共催）  
高松栗林ライオンズクラブ（主催）  
栗林公園商工奨励館立札席  
700円（入園券なし、自払い又は老人手帳） 当日券あり 9:00～15:00

琴平月釜茶道会 ☎(0877)75-4420

9/14 松尾寺月釜 席主：上松宗邦  
松尾寺 500円 9:00～16:00

茶道裏千家淡交会香川支部 ☎(0877)46-1899

6/1 月釜 席主：島津宗寿  
坂出翠松閣 500円 9:30～14:00

6/8 菖蒲茶会 席主：坂出分会班  
坂出川津菖蒲園  
300円 10:00～15:00

7/6 月釜 席主：口入田宗美  
勤労福祉センター  
500円 9:30～14:00

7/6 月釜 席主：平宅宗弥  
観音寺働く婦人の家  
500円 12:00～15:30

7/6 月釜 席主：善琴青年部  
善通寺樟蔭軒 500円 10:00～15:00

茶道裏千家淡交会高松支部 ☎(087)865-7150

6/1 月釜 席主：松尾宗淑  
9:00～16:00

7/6 月釜 席主：土居宗房  
9:00～16:00

8/3 月釜 席主：磯部宗祐  
8:00～13:00

9/7 月釜 席主：香西宗清  
9:00～16:00

[全日とも 天神会館 600円]

茶道裏千家淡交会高松支部屋島青年部 ☎(087)885-6805

6/1 まちかど茶会  
主席：裏千家淡交会屋島青年部  
丸亀町レツツ（丸亀町商店街）  
500円 11:00～16:00

三癸亭賣茶流高松仙友会 ☎(087)831-4649

6/15 高松仙友会茶会  
主席：第1席 新田英世社中  
第2席 高橋ツエ社中  
雑賀キヨエ社中  
喜多道子社中  
被雲閣 1100円 9:00～15:00

武者小路千家香川官休会 ☎(087)851-2258

6/1 月釜 席主：小池公江  
本覚寺 500円 9:00～15:00

7/6 月釜 席主：青年部  
本覚寺 500円 9:00～15:00

7/13 栗林公園月釜 席主：頭松会  
栗林公園掬月亭  
800円 9:00～16:00

8/3 月釜 席主：嶺松会  
本覚寺 500円 9:00～15:00

9/7 月釜 席主：頭松会  
本覚寺 500円 9:00～15:00

武者小路千家官休庵 佐々木博子社中 ☎(087)821-8777

7/6 第12回香川大学学生釜（ゆかた茶会）  
部長 川原さつき  
主席：官休庵佐々木博子  
中條文化振興財団

500円 9:00～16:00  
7/13 朝茶 席主：官休庵 佐々木博子  
栗林公園花園亭  
3000円 6:30～11:00

次の期間（9月1日から12月上旬）の情報を8月10日までにお知らせ下さい。

上記予定は変更する場合もあります。

中條文化振興財団助成事業

## 茶の湯の文化講座

### 「茶席の中の道具の見方」

主催：茶の湯をさらに楽しむ会  
申し込み先 [☎826-3355]

■講師 小田 栄一 氏

■とき 平成15年7月27日（日）13:00より

■処 晴松亭（中條文化振興財団茶室）

■会費 2,000円

# イ ベ ン ト ガ イ ド

観音寺市民会館 ☎(0875)23-3939

6/8 東京佼成ウインドオーケストラ  
9:00～●  
7/13 第9回フロイデコンサート 9:00～●  
8/1～3 第51回全日本吹奏楽コンクール  
香川県大会 9:00～●  
8/10・11 観音寺ジュニアコンクール 9:00～●  
9/28 華クラブ歌謡祭 9:00～●

仁尾町文化協会 ☎(0875)82-5109

8/14～17 文化協会美術部合同展  
(絵画・書道・彫刻・陶芸)  
仁尾町役場町民ギャラリー 9:00～●

あーとらんど ギャラリー ☎(0877)24-0927

<2階工芸ギャラリー>  
6/14～29 「風の仲間たち」展 10:00～■  
7/6～23 素晴らしい出会い展 10:00～■  
9/6～28 暮らしの中の骨董展 10:00～■  
<1階絵画ギャラリー>  
6/21～7/13 2003様々な邂逅展 10:00～■  
9/1～28 高橋章写真展 10:00～■

# イベントガイド

香川県文化会館 ☎(087) 831-1806

- <1・2・3階展示室>
- 6/14~29 第68回香川県美術展覧会(後期)  
9:00~●
- 9/4~15 第42回日本現代工芸美術展  
9:00~●
- <1・2階展示室>
- 7/26~8/24 新しい美術の誕生  
~20世紀初頭から戦前まで~  
9:00~●
- <6階常設展示室>
- 7/19~8/24 館蔵品による秋山泰計展  
~びっくりくりくり!!さかさまの世界~  
9:00~●
- 9/4~10/13 館蔵品による花たちが語るもの展  
9:00~●

香川県県民ホール ☎(087)823-3131

- <グランドホール>
- 6/1 高松市民吹奏楽団第29回定期演奏会  
14:00~●
- 6/4 SPITZコンサート  
18:30~●
- 6/14 T.M.Revolutionコンサート  
18:00~●
- 6/17 トロカデロ・デ・モンテカルロ バレエ団  
19:00~●
- 6/21 高松交響楽団第95回定期演奏会  
18:00~●
- 6/27 中森明菜コンサート  
18:30~●
- 6/28 ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団  
14:00~●
- 7/6 劇団四季「ハムレット」高松公演  
18:30~●
- 7/10 大黒摩季コンサート  
18:30~●
- 7/11 よんでん文化振興財団奨学生  
「第8回ふるさとコンサート」  
18:30~★
- 7/13 第27回自衛隊高松定期演奏会  
14:00~★
- 7/15 宗次郎オカリナ・コンサート  
18:30~●
- 7/18 森進一&森昌子オン・ステージ  
14:00~・18:00~●
- 7/20 藤井フミヤコンサート  
18:00~●
- 7/27 吉田兄弟コンサート  
17:00~●
- 7/30 劇団四季ファミリーミュージカル  
「青い鳥」  
18:30~●

高松市歴史資料館 ☎(087) 861-4520

- <特別展示室>
- 6/3~7/6 高松自動車道全線開通記念埋蔵文化財展 講岐横断101km  
~未来への道・発掘の記録~  
9:00~●
- 7/19~9/15 第33回特別展 「ヒーローズ~特撮・アニメの歴史と現代」展  
(仮称) 9:00~●

高松市教育委員会文化振興課 ☎(087)839-2636

- 6/9 デリバリーアーツ事業「バリ舞踏」  
下笠居小学校 15:30~■
- 6/10 デリバリーアーツ事業「バリ舞踏」  
総合福祉会館 9:30~■
- 9/4~ 高松市民文化祭  
「アーツフェスタたかまつ2003」  
高松市民会館 14:00~未定
- 9/6 オープニング ジュニアオペレッタ  
「妖精の森」  
高松市民会館 14:00~未定

高松市美術館 ☎(087)823-1730

- <2階展示室>
- 6/6~22 ベスト・コレクション展一人間の  
イメージ 9:30~●
- 7/25~8/31 ヘンリー・ムーア展 9:30~●
- 9/12~10/19 モーリス・ドニ展 9:30~●

菊池寛記念館 ☎(087) 861-4502

- <第1集会室>
- 6/7 文芸講座  
「川端康成の文学とその周辺」13:30~■
- 7/5 文芸講座  
「壺井栄の文学②」 13:30~■
- 8/2 文芸講座  
「蕭条たる菊池寛」 13:30~■
- 9/6 文芸講座  
「現代短歌の楽しさ」 13:30~■

高松市立市民会館 ☎(087)839-2888

- 6/11 スガシカオコンサート 19:00~●
- 7/9 こぶ茶バンドコンサート  
14:00~・16:00~●
- 9/14 琴・尺八・三弦による邦楽三曲  
演奏会 12:00~●
- 9/28 新生若葉劇団がんばれチビ玉  
三兄弟全国ツアーブラ  
14:00~・18:00~●

玉藻公園管理事務所 ☎(087) 851-1521

- <内堀>
- 6/1 第19回英公様追悼遊泳祭
- <披雲閣>
- 6/15 三葵亭賣茶流高松仙友会茶会
- 6/22 茶道石州流琴松会創立第47回記念茶会
- 6/29 第52回かまと茶会
- 7/6~8/3 菊作り講習会
- 8/29~31 墓蹟展と華展
- 9/14 高松市民文化祭 文芸まつり
- 9/15 菊作り講習会
- 9/20~21 高松市民文化祭 お茶といけばな展
- 9/23 高松市民文化祭  
世界のお手玉を見て作って遊ぼう

三越高松店 ☎(087)825-0828

- <本館5階美術画廊>
- 5/27~6/2 國司華子日本画展
- 6/3~9 美術特選会 絵画特集
- 6/10~16 美術特選会 陶芸・彫刻・西洋美術特集
- 6/17~23 市松人形展
- 6/24~30 掛軸・大表装展

四季ギャラリー ☎(087)822-9010

- 6/1~30 古川清一「花火」写真展 7:30~■
- 7/1~31 ヒマラヤの旅 三人写真展  
井川淳、長田晴雄、猪熊アイ子 7:30~■
- 8/1~15 ひょうげ祭り写真コンテスト展 7:30~■
- 8/16~31 ハリハリ画展 7:30~■

[日・祝日は休館]  
ヨンデンスラザ高松 ☎(087)851-3863

<ギャラリー>

- 6/1 日本画クラブ“おしゃべり画伯”展 ■
- 6/3~8 バラ色のレース&キルト…そしてウェディングの為のシュガーケーキ ■
- 6/17~29 和紙ちぎり絵展  
「会員18名による色紙、短冊等のちぎり絵 約60点の展示」 ■
- 6/24~29 竹細工「県内の竹愛好家30名による竹細工 約150点の展示」 ■

土庄町教育委員会 ☎(0879)62-0238

- 8/23 第4回小豆島童謡音楽祭  
土庄町立中央公民館 14:30~●
- 9/13 能楽座小豆島公演  
肥土山の舞台 17:00~未定

牟礼町教育委員会 ☎(087)845-2124

- 7/5~17 文月展 牟礼町公民館、牟礼町総合体育館 9:00~■
- 8/2 2003おいでまい祭り  
牟礼町石匠の里公園 17:00~■
- 9/6~18 長月展  
牟礼町石の民俗資料館 9:00~■
- 6/1~7/31 第6回石のさとフェスバル  
牟礼町石匠の里公園 9:00~■

丸亀市教育委員会文化課 ☎(0877)24-8822

- 7/12~20 第68回香川県美術展覧会受賞作品展 丸亀市立資料館 9:30~■
- 7/31~8/22 民芸壺まんだら展  
丸亀市立資料館 9:30~■

丸亀市文化協会 ☎(0877)24-8822

- 8/13~14 市民盆おどり大会  
丸亀市立ひろば 18:00~■
- 8/31 名作映画まつり  
(おかあさん・浮雲・飢餓海峡)3本立て  
丸亀市生涯学習センター 10:00~●

飯山町教育委員会生涯学習課 ☎(0877)98-7961

- <飯山町役場庁舎分館1階ギャラリー>
- 6/2~12 ミニチュア着物展 ■
- 6/14~21 木彫り展資 ■
- 7/1~11 清風会展(絵画・書道等の展示) ■
- 9/1~11 書道展 ■
- <財田町香川用水取水口>
- 6/11 坂本念佛寺香川用水取水口祭 ■

仲南町教育委員会 ☎(0877)77-2882

- 7/6 南ファミリー劇団「山口英二朗」  
座長襲名20周年記念公演  
仲南町市民文化ホール 13:00~●
- 9/1~14 仲南町文化協会展(作品展示)  
仲南町農村環境改善センター  
平日・土曜 13:00~■  
日曜 9:00~■



## 光恵82才 小さな絵の世界

では選外乍ら「おばあちゃんのがんばり」褒美にと、絵を百枚カレードにしてくださいました。翌年（午年）は本物に入選。馬とマリリン・モンローを描きました。国民文化祭では四季折々の栗林公園を歩く七福神シリーズを描きました。去年は三木町のOPEN CAMPで展覧会。そして、サンボート高松絵画展では「いただきさんの海鮮市」を描いてNHK高松文化センター賞を受賞。これが御縁で、今年四月十五日（二〇日）、NHK高松ふれあいギャラリーで「光恵82才小さな絵の世界」個展となりました。

「七福神様を描いてみようかしら」ごく普段の会話からもう丸七年。絵を描くことがこんなにも楽しくて、日々を幸せに暮らせるものか、夢にも思つていませんでした。あの会話の後、急死した夫との二人三脚です。絵の具はどう使うか、筆は、紙は、全てが自己流でした。

「少しでも毎日描くといいですよ。」

知人のアドバイスが支えになりました。

平成九年全国公募に挑戦。ナイアガラの滝を背に「七福神の記念撮影」が、西脇市サムホール大賞展に入選して以後

の励みになりました。

絵は七福神、猫、馬、女人の人等々。

空想の中で旅をしたり、遊んだり、小さな明るい絵の世界です。石や貝にも描きます。年賀状コンクール（札幌）



立札席や小間（美藻庵）でゆったりとした時間をお楽しみいただけます。コーヒー紅茶等の用意もあります。茶会ではありませんので、茶道の経験に関係なく気軽に立寄り下さい。

### 晴松亭でお茶しませんか！

- 平成15年6月17日(火)
- 平成15年7月15日(火)
- 平成15年8月19日(火)

毎月第3火曜日 ●10:00~16:00

喫茶料 1000円（友の会は500円）

（予約のみですが、特製ランチもご用意致します）

月に一度の喫茶室

〔声・情報お寄せください〕

〒760-0017 高松市番町二丁目一一二十一  
TEL (087) 826-3355  
FAX (087) 826-2212  
(財)中條文化振興財団編集部



「六月から一人連想ゲームをしてみました。水無月・梅雨入り・ゆる抜き・田植え・あめんぼう・あまがえる・紫陽花：季節や風景だけでなく、彩りや物の形も思い描きながら「香り」まで感じられそうな「ことば」ではないでしょうか。」

先日、当財団コンサートの中で編集されて八百年になる新古今和歌集を読む機会がありました。その中の十三の歌だけでしたが、三十一文字に読み込まれた散りゆく花、したたり落ちる水滴、吹き過ぎる風、暮れ行く月などその情景が浮かんでくると同時に自分がその中にいるような錯覚さえしてしまいました。本当に「美しいことば」だと思いました。

死語になってしまった歌詞のために歌われなくなつた童謡や唱歌の中にも美しい情景がたくさんあるのを皆さんもよくご存じでしょう。

外来語や日本語英語、短縮言葉などが氾濫している今日、ほんの少しでも情報発信に関わっているのであれば、文字だけではなく「ことば」そのものを伝えるという大切な役割があるということを改めて認識させられたし、そのためには毎日の生活の中でも意識をもつて「ことば」を使わなければならぬと自戒すること頻りです。

### 編集後記